

				NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報			
				発行人/理事長 馬場 英男			
				(連絡先) 〒625-0062 京都府舞鶴市森 875-2			
				TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764			
				E-mail brick@iris.eonet.ne.jp			
特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴							
会報 104号 平成30(2018)年5月1日							
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ				http://www.redbrick.jp/			

目次

1 平成30年度法人通常総会のお知らせ	事務局	5 連載『我が国の近代土木遺産』	こいけ りか
2 平成30年度事業計画案とご案内	事務局	6 「第6回市内赤煉瓦建造物見学会」報告	馬場 英男
3 「赤煉瓦ネットワーク横浜大会」概要	事務局	7 その他 会費納入依頼、編集後記	事務局
4 西村幸夫教授最終講義 聴講記	こいけ りか		

1. 平成30年度NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴 通常総会 開催のお知らせ

事務局

平成30年度のNPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴の通常総会を下記の通り開催します。

※ 同封のハガキにて、5月31日までに総会への出欠を必ずお知らせください。

- 開催日時 平成30年6月10日(日) 午後2時から
- 開催場所 「アトスペース973」にて 舞鶴市字森973-1 (白鳥通り大森神社参道入口)
- 議案 ①・② 平成29年度事業報告・会計報告
③・④ 平成30年度事業計画・会計予算

2. 平成30年度 事業計画案とご案内

事務局

平成30年度に予定している事業計画案を下記の通りお知らせします。会員の皆様の多くのご参加をお願いします。

①「第6回市内赤煉瓦建造物見学会」

(但し、終了しています。本号報告をご覧ください。)

- 見学先 舞鶴要塞吉坂堡壘砲台跡・附属砲台跡
- 開催日 4月15日(日) 12時30分~16時
- 参加者 22名

②「第8回市外近代化遺産視察会」

- 見学先 京都市伏見地区、京都聖母女学院本館(旧陸軍第16師団司令部跡)、関電墨染発電所&伏見インクライン跡、御香宮神社(日本名水・薩摩藩陣地跡)、京セラファインセラミック館・京セラ美術館・松本酒造(煉瓦

建物・煙突)、鳥羽離宮跡公園(鳥羽伏見戦史跡)

- 開催日 7月4日(水) AM7:30~18:00 予定
- 参加費 6,000円/人程度(昼食代別) 予定
- 参加申込 6月22日(金)までに、事務局にお申込み下さい。

③「廃校舍活用事例見学会」

- 見学先 綾部市里山交流研修センター、京丹波町旧質美小学校、綾部市老富町陶芸窯スタジオ22ほか
- 開催日 5月26日(土) AM9:00~17:00
- 参加費 2,000円/人程度(昼食代別) 予定
- 参加申込 5月21日(月)までに、事務局にお申込み下さい。

3. 「赤煉瓦ネットワーク横浜大会」開催概要

事務局

本年開催予定の赤煉瓦ネットワーク横浜大会の概要が、横浜大会事務局から発表されましたのでお知らせします。

- 大会開催日時：2018年11月10日(土)
13:00~17:00

- ・懇親会 17:30~
- 大会会場：YCCヨコハマ創造都市センター
3階イベントスペース
〒231-8315 横浜市中区本町6-50-1
<http://yokohamacc.org/>

- ・懇親会会場 現在未定（大会会場近くを予定）
- 横浜まちあるき：2018年11月11日(日)
09:00~11:30
- ・[港湾施設]と[近代建築]の2コースから選べるまちあるきを予定
- 会費

- ・大会参加+懇親会+まちあるき ¥6,000/人程度
- ・大会参加+まちあるき ¥1,000/人
- 宿泊施設のご予約は、各自でお早めにお申し込みします。
- ※参加者募集等は、次会報105号で詳報します。

4. 西村幸夫教授最終講義「都市から私が学んだこと」聴講記

こいけりか（特別会員 NO. 87）

3月16日、東京大学本郷キャンパスで、東京大学都市デザイン研究室教授 西村幸夫先生の最終講義がありました。

赤煉瓦ネットワークのアドバイザーにもなっていた西村先生ですが、学生時代から現在に至るまで考え、学び、研究し、時には戦ってきたまちづくりの数々をご本人からうかがうことができる貴重な機会でもあり、大勢の立ち見が出る大盛況の2時間半でした。

高度成長期、「屋根瓦が見えないまちづくり」などという標語が掲げられ全国各地で町家や古民家等の古い建物と町並みが次々と壊されていた当時、大学生だった先生は、古い町並みが壊されることに疑問を持ち、小樽運河の保存をはじめ、国内各地で町並み運動をやっている人々を先生に、彼らから多くを学んだと仰っておられました。

当時の都市計画の専門家は古い建造物を残したり活用する人がいなかったため、飛騨古川や鯖街道の熊川等に代表される歴史的な街並みの保全に関わるなかで、古い建物が改修され、町並みが整って町が良くなる変化が先生の強い味方になったそうです。「保全」という発想のルーツを探っても日本には保全について書かれた本が無く、海外事例を調べ、欧米ではローマ時代の遺跡や戦場が保全の対象であるが、日本では社寺がそれにあたることに

至り、廃仏毀釈のような大きな変化があると「保全」が起きるということに気付いたそうです。

全国の保存運動すべてに関わることはできないが、自分の町に起きたとき、全人格をかけて対峙するという強い信念のもと、神楽坂や丸ビル、国立、鞆の浦の景観裁判を闘い、敗訴するも「景観」が国民の財産であることを最高裁の判決に記させたことが、都市景観保全のための法制度整備へとつながって行く道筋だったことがわかりました。教育者としても多くの研究者や専門家、文化財系の官僚を育てたことは、まさに偉業ではないでしょうか。

印象深い言葉も多く、「町は、想いを持って、仲間を募り、あるビジョンを掲げることで変わる」という言葉が心に刺さりました。先生が小樽運河の保存に関わっておられた峯山富美さんの生き方から感じとり、最終講義の中で何度も仰っておられた『堂々とした日常を確信をもって過ごせ。そして「その時」に備えよ。』という言葉の重みを強く感じました。

なお、最終講義の前のリレーシンポジウムでは、「西村幸夫町並み塾実行委員会事務局」の埴正浩氏の発表の中で、NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴の馬場英男氏が、国内各地でまちづくりに活躍している方々の1人として紹介されておりました。



最終講義後、花束を受け取った先生



多くの著書と並び5歳の先生の写真も



赤煉瓦倶楽部舞鶴馬場さんの紹介

5. 連載「我が国の近代土木遺産」～ドボクワイサン重箱の隅～

こいけりか（特別会員 NO. 87、(株)奄美群島環境文化総合研究所代表取締役）

前回～前々回は、大規模で広範な土木構造物や遺構を航空機や船舶の速度や高度から見ることで、電車や自動車とは異なる非日常的な視点からの風景が楽しめることをお伝えさせていただきました。視点の変化による土木構造

物や都市の楽しみ方は、各地の身近な都市河川でも行われている。桜の季節は日ごろ気にしない都市河川の魅力を舟による川逍遥で楽しむ絶好のタイミングであろう。

富山市の中心市街地を流れる松川は、神通川の古い河

川線形の名残りである。神通川の河川改修は1896(M29)～1937(S12)年まで行われた。オランダ人技術者デ・レーケの分水路計画は、「馳越線(はせこしせん)工事」と呼ばれ、1901(M34)年から2年の工事期間を要し、神通川の蛇行部分が直線化され現在に至っている。河水が流下し

なくなった蛇行部分の廃川地は、1927(S3)年から始まった富岩運河の開削工事の土砂で埋め立てられ、現在の富山県庁、県警、市役所等が立ち並び官庁街が建設された。富山の街の近代化は、神通川の河川改修と深く結びついていたことが分かる。



画像①船から見た川と桜橋の景観



画像②真下から見る桜橋の下部構造



画像③水面近くから見る水路合流部

画像①～③は、松川遊覧船の歴史クルーズで見た川面からの風景だ。

画像①は、松川の左右両岸に植えられた桜並木と親水性の高い護岸の奥に国登録文化財の桜橋の鉄骨アーチが見える。中心市街地の都市河川でありながら生活排水等の臭いが全くないことに驚かされる。水中には藻や水草等は殆ど見られず、川底の小石や砂が非常に綺麗で川魚も泳ぐ水質の川である。

画像②は、1935(S10)年に竣工した桜橋の下を船で通過する際、見ることができる下部構造である。桜橋は、橋長16.0m、橋幅22.0m、2ヒンジの鋼アーチ構造で、上部の道路が松川と斜めに交差するため斜橋として架橋されている。船からは規則正しく並ぶリベットやヒンジを良く見ることができる。

画像③は、クルーズの途中、船を旋回させる水路の合流部分だが、玉石の護岸とコンクリート製の小橋の下を流れる水流がのどかでありながら、水に親しんでいる富山の生活を感じさせられる。

現在は、富山を訪れる多くの人が松川の水辺を楽しんでいるが、川を暗渠化し駐車場を作る計画やドロロが堆積して水質が悪化した時代もあった。松川が富山の都市観光の目玉となったのは、川船のクルーズを運航している民間事業者の熱心な取り組みから始まったもので、30年以上前に松川の重要性に気づき、その魅力を広く知らしめようとした慧眼あつての歴史クルーズだ。桜の盛りは逸してしまっただが、クルーズの船長が説明する富山の街の成り立ちは非常に興味深いものであった。

6. 第6回市内赤煉瓦建造物見学会

「舞鶴要塞吉坂本堡壘砲台跡及び附属堡壘跡」見学報告

馬場英男(会員 No. 8)

平成30年度事業として4月15日に開催した「第6回市内赤煉瓦建造物見学会」ですが、事前に会員の皆様にお知らせする間もなく実施することになりましたこと、ご了承ください。昨年計画していた事業でしたが、悪天候で中止した経緯があり、今回も雨天のため時間を午前から午後に変更してようやく実施する事が出来ました。

明治20年に舞鶴港が第四海軍区鎮守府に内定、同22年に第四海軍鎮守府を舞鶴に決定、同29年に臨時海軍建築部を東京、同支部を舞鶴に置き、同30年に舞鶴軍港建設工事起工鋤入れされ、以後国の威信をかけ建設され、今日でもほとんどの旧軍施設が現存しています。

このうち舞鶴要塞吉坂本堡壘砲台及び附属堡壘跡は、明治33年から35年にかけて、舞鶴鎮守府(明治34年10月開庁)をロシア軍から防御するため、旧陸軍により

舞鶴の檳山・建部山・金岬・葦谷の堡壘砲台築造と同時期に築造されたものです。主な役割は、若狭湾福井県側海岸に上陸し舞鶴要塞に侵攻するロシア軍を阻止することを目的としたものです。本堡壘砲台と附属堡壘に分かれています。ほとんどが現福井県高浜町に位置し、本堡壘砲台の一部が舞鶴市側に築造されています。

数年前から、高浜町教育委員会において文化庁の補助を受け測量調査及び発掘調査が開始され、昨年全容が明らかになり見学が可能となったものです。

舞鶴市では平成28年に文化庁「日本遺産」に認定され、平成29年にもイコモス「日本の20世紀遺産20選」に選定された舞鶴の海軍構成施設でもある各砲台の調査が進んでいない状況ですが、吉坂を含めた舞鶴要塞の堡壘砲台等の調査が開始されることが望まれます。



途中立ち寄った国登録有形文化財の松尾寺駅舎旧本屋



高浜町教育委員会 安倍さんより説明



整備された急な山道を登る



吉坂附属砲台跡のかまど跡



附属砲台跡



本堡壘砲台跡の雨水集水瀧過井戸



本堡壘砲台跡



砲台芯棒土台（コンクリート製）



本堡壘砲台正門前で記念撮影

7. その他 会費納入依頼、編集後記

事務局

1. 会費納入について 平成30年度分の会費を、同封の振込用紙にて5月31日までをお願いします。

なお、特別会員の皆様にも厚くましく振込用紙を同封していますが、ご寄付（一口千円）をいただければ幸いです。

2. 編集後記 前述のとおり、大変お世話になった西村幸夫東大教授が退官されました。先生と初めてお会いしたのは、28年前の平成2（1990）年11月25日開催の「第1回赤煉瓦シンポジウム in まいづる」で基調講演をお願いした際である。以来、赤煉瓦ネットワークのアドバイザーとして、常にまちづくりのご指導をいただいた。私事になるが、先生の声掛けで横浜で開催された国際シンポジウムにパネラーで参加した事、先生編著の「観光まちづくり」（学芸出版社刊）に観光まちづくりの実践事例の一角に執筆させていただいた事、石川県で長らく開催の西村幸夫町並み塾において活動報告をさせていただいた事、直近では平成28年の暮れに東京文化財研究所において栄えある「日本イコモス賞」を先生から直接表彰していただいた事など数々思い出されます。これまで親しくお声掛けしていただいたこと厚く御礼申し上げる次第です。先生が今後益々国内外において大きく羽ばたかれご活躍されることをご祈念申し上げます。（h. b）

会員資格： 会費納入者（特別会員は除く）。入会金1,000円、年会費（個人2,000円、法人10,000円）。
なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご寄附も受け付けます。
会費・寄付金等 振込先： ゆうちょ銀行 口座番号（01010-6-21476） 加入者名： 赤煉瓦倶楽部舞鶴